



## 進む、教育関係者との対話。

### 「へき対」再開の申し入れの大切さを痛感！

へき地級地算定の見直しに関わって、宗谷教組では申し入れ書を活用して懇談を進めています。行政的には、これから算定に係る通知などが出される模様で、「全貌をつかむ」とまではなっていない中での懇談を進めています。そんな中で、管内では市町村の「へき地対策連絡会」の再開に向けた世論が作られ始めているようです。

豊富町や中頓別町では、教育長や校長会などが「町のへき地対策連絡会」について具体的な話をしてくれているようです。

一方で、今回の算定に向けては、様々な立場の中で「計算をしないおすだけでしょ」という意識が強いのも現状です。「宗谷のへき地の取り組みの歴史性はわかるが、今回は算定だけだから…」という消極的な声です。時代が便利になる中で、都市近郊と宗谷のような場所の“相対的へき地性”は、縮まるどころか、広まっているのではないのでしょうか。人口減少が進み、地方切り捨ての政治が行われる中では、医療面や日常生活面で「へき地性の進行」を感じざるを得ない場面は、意外に多いものです。こうした意識を級地に反映させるためには、6年ごとの算定の機会を大切にしていかなければなりません。

#### 各支部執行部のみなさん！

教育関係者との対話状況を教えてください。

共有して発信することが次の1歩につながります。

## 支部学習会スタート！

宗谷の教育に携わる私たちが歴史的に、教育条件として「へき地級地を守るたたかひ」をしてきた意義や、算定の仕組みなどを学び合う支部学習会が管内のあちらこちらで計画されています。13日（水）には、浜頓別・中頓別の両支部が合同で学習会を行いました。

### 参加されたみなさんの感想から

インターネットで買い物はできるけど、離島は送料が高いとか、北海道だから本州からだとかの日着かないとか、やっぱり不便ですよ。日用品の買えるスーパーがあるでしょ…と言っても、ひとたび船が止まったらお店の品ぞろえが不十分になるでしょ。JR（在来線）があっても、線路が流されたら復旧してもらえないのはかわいそう…。やっぱり北海道にはへき地がたくさんあって、それでも教育条件がなるべくどこでもいっしょになるよう声をあげていくことは大事ですよ。

私は礼文で育って大学で外に出て、自分がいかに都会の人たちより体験していることや見たりふれたりしている文化が少ないか（その分、自然の良さはたくさんあるのですが…）ということを実感したので、いろいろ便利になったとはいえ、やはり、田舎にいる子どもには少しでもいい条件で教育をしてあげたいと思います。だから大事な取り組みだと思います。

へき地の理解度チェックなど、へき地級に関する学びとしてたいへん参考になりました。まずは、知ることが大事なのだと思います。この運動は、地方を守る大切な運動なので、一致団結してがんばりましょう。

#### 【今後の予定】

19日（火）

利尻・利尻富士

20日（水）枝幸

25日（月）猿払

28日（木）礼文